

## アルゼンチンの社会科学研究所および図書館

—— トルクワト・ディ・テーリャ研究所を中心として ——

いま 井 圭 子

## I

アルゼンチンにおける社会科学分野の研究機関はロサリオ、コルドバ、メンドサ、ツクマンなどの地方主要都市にも重要なものがあるが、その中心はやはり全人口の13%近くを吸収するブエノスアイレス市に求められよう。大学付属研究所、官庁関係研究機関もさることながら、研究領域および研究業績、専任研究員の数などからまず重視しなければならないのはトルクワト・ディ・テーリャ (Torcuato Di Tella) 研究所であり、同研究所はアルゼンチンの社会科学分野における一つの中心的役割を果たしてきたとみてよい。本稿ではディ・テーリャ研究所を中心に、ブエノスアイレス市におけるアルゼンチンおよびラテンアメリカを対象とする主要な社会科学研究所および図書館について紹介していこうと思う。

ディ・テーリャ研究所はブエノスアイレス市の中心街から少し離れた高級住宅地の一つであるベルグラノ地区の一画にあり、社会科学と医学の2部門からなっている。かつてフロリダ街に美術部門の研究所を持っていたが、1970年末財政上の問題から閉鎖されることになった。社会科学部門は経済 (Centro de Investigaciones Económicas), 社会学 (Centro de Investigaciones Sociales) 都市および地域研究 (Centro de Estudios Urbanos y Regionales), 公共行政 (Centro de Investigaciones en Administración Pública), 教育 (Centro de Investigaciones en Ciencias de la Educación) の五つからなる調査研究部門に加えて、コンピューター室、図書部、出版会などから構成されている。ここでは経済、社会学、都市および地域研究の部門および図書部についてみていくことにする。

当研究所は1958年7月22日に設立された。実質的な創立者は Torcuato Di Tella 財団 (機械、電気製品部門を中心とする大企業) の元社長 Torcuato Di Tella 氏であるが、研究所の発足をみる前に死去され、その意図は二

人の子息 Torcuato Di Tella (社会学者) および Guido Di Tella (経済学者) 両教授をはじめとする研究者に継承され今日に至っている。創立の精神は「営利を目的とせず—— (中略) ——研究の自由と独立を尊重しながら—— (中略) ——アルゼンチンおよびラテンアメリカの現実」(Instituto Torcuato Di Tella, *Memoria y Balance 1968*, p. 9) を究明し、かつ今日世界が直面しているより普遍的な課題に取り組むこととされている。研究所運営の資金源は主として Di Tella 財団からのものであるが、その他フォード、ロックフェラー両財団、社会科学研究所審議会 (Social Science Research Council ニューヨークに本部あり)、ユネスコ、国際開発銀行 (IDB)、アルゼンチンの科学技術研究国家審議会 (Consejo Nacional de Investigaciones Científicas y Técnicas) などからも助成金を受けている。財政上の問題から1970年に行なわれた組織改正は社会科学部門には及ばなかった。

研究組織は専任研究員を主軸として構成されているが、アルゼンチンおよび外国の研究者、研究機関との学術協力が重視され、外国からの客員研究員を受け入れると同時に、同研究所からもラテンアメリカおよび欧米諸国へ研究者を送り出している。所長 Roberto Cortés Conde 教授の話によると、研究課題の設定、研究期間の決定など研究計画立案にあたっては各研究員の自主性が尊重され、研究形態は個人研究を中心とするが、テーマによってはグループ研究を組織することもある。所内研究会を通して研究員相互間の意見交流が行なわれ、また外部に対しては定期的にゼミナールが開催されることである。それでは次に各部門ごとにその研究活動についてみていくことにしよう。

## 〔経済部門〕

まず研究員のリストを掲げよう。

研究部長: Alberto Petrecolla (以下敬称略)

主任研究員: Mario Brodersohn, Adolfo Canitrot, Jorge Katz, Rolf Mantel, Ana M. Martirena Mantel, Javier Villanueva 他。

客員研究員: David Félix, Karlio Goppers  
他研究助手: 若干名。

この部門は社会科学分野では最も早い、1960年8月1日に設立された。その目的は経済理論の研究水準を高めると同時に、理論の現実面への適用におかれている。

1971, 72年の研究はインフレーションに焦点がおかれ、「利子率マイナスのインフレ経済における通貨政策の効率性」(M. Brodersohn), 「インフレ期における利子率政策の効果」(R. Mantel), 「アルゼンチンのインフレ問題と所得分配」(J. Villanueva), 「相対価格変動のマクロ経済的效果」(A. Canitrot) などの研究が進められている。1950年代後半から1960年代初めにかけてラテンアメリカでは、通貨学派と構造学派との間に活発なインフレ論争が起こったことは周知の事実であるが、両者間の理論面での論争は1960年代前半においてほぼ一段落し、それ以降研究の主眼点はむしろインフレ過程に関する実証分析に移行していく傾向にある。1972年のアルゼンチンにおける年間インフレ率は60%を上まわりその後もインフレ率は増加傾向を示している。今やインフレはアルゼンチンがかかえる最も深刻な経済問題になっており、研究課題の設定もこうした経済情勢を反映したものである。インフレ問題のほか、「私的投資の金融的インセンティブ」(M. Brodersohn), 「外国投資の効果」(J. Villanueva), 「特許と経済発展」(J. Katz) など、資本および技術導入に関する研究、さらには「アルゼンチンにおける工業化の発生過程」(J. Villanueva), 「1880年から1930年にかけてのアルゼンチン経済の発展と農業部門」(R. Cortés Conde) などの歴史的実証研究が進展中である。

#### 〔社会学部門〕

研究部長: Ezequiel Gallo

主任研究員: Oscar Cornblit, Esther Hermitte, Eliseo-Verón

研究員: Alfredo Lattes, Zulma Recchini de Lattes, Ruth Sautu, Silvia Sigal, Catalina Weierman

客員研究員: Tulio Halperin Donghi, Francis Korn, Roberto Martínez Nogueira, David Rock, Juan Carlos Torre, Alejandro Portes

他契約研究員, 研究助手: 4名。

社会科学部門の設立については、研究所設立時点から構想がねられていたが、その実現は1964年1月に待たなければならなかった。設立初期は欧米諸国で社会学を学んできた研究者によって組織されたが、現在では研究領

域も拡大し、人口問題、社会心理学、文化人類学、社会歴史学、統計学などの専門家から構成されている。1971, 72年に行なわれた研究の中には、人口問題、とくに移民、農村から都市への人口流出、就業構成に関するもの、たとえば「過去、現在、将来におけるアルゼンチンの人口すう勢」(A. Lattes), 「1947年以降の労働力構成における変化の諸要因」(A. Lattes, Z. R. de Lattes, R. Sautu) 「1869年から1970年までのアルゼンチンの労働力」(Z. R. de Lattes), 「1947年から1970年にかけてのアルゼンチン人口の動態」(A. Lattes), 「1869年から1960年までのアルゼンチンにおける出生率」(A. M. Rothman), 「1855年から1960年までのブエノスアイレス市における死亡率」(M. S. Muller), 「経済発展と就業構成」(R. Sautu) などの研究課題に取り組んでいる。その他、労働運動、そしてより広い社会経済構造の変化を扱ったものとして、「アルゼンチンにおける労働組合と労働者階級」(J. C. Torre), 「1890年から1946年までのアルゼンチンにおける政治勢力の行動様式」(O. Cornblit, E. Gallo), 「18世紀中葉のアルトペルーにおける反乱とその社会経済的背景」(O. Cornblit), 「1920年から1930年にかけてのブエノスアイレスの社会構造」(F. Korn), 「サンタフェ州における穀作の拡大と政治社会的変化(1870—1895)」などがある。

#### 〔都市、地域研究部門〕

研究部長: Alejandro B. Rofman

主任研究員: José L. Coraggio, Jorge E. Hardoy, Mario C. Robirosa, César Vapñarsky, Oscar Yujnovsky

研究員: Edgardo Derbes, Oscar Fish

客員研究員: Raúl Basaldúa, Alberto Federico, Marcos Kaplan, Margot Romano, Horacio Torres, María Magdalena Chirico, Guillermo Flichman, Rubén Gazzoli, Oscar Moreno

他研究助手: 1名。

昨今注目されはじめた都市問題および地域開発の研究を行なうため、ブエノスアイレス国立大学付属の都市、地域研究所が新たに1968年、Di Tella 研究所内に移転、設置されたもので、都市、地域開発計画立案のための基礎分析を行なうことを目的としている。「アルゼンチンの都市中心部の経済構造」(J. L. Coraggio), 「ラテンアメリカにおける都市化の背景(1870—1930)」(J. E. Hardoy) 「ラテンアメリカの都市改革と都市政策」(J. E. Hardoy) 「大ロサリオ地域における経済活動の構造と計画」(A.

## 研究機関紹介

B. Rofman), 「アルゼンチンにおける都市化過程の人口生態学的分析 (1870—1970)」(C. Vapňarsky), 「首府の全経済部門に関する予備的報告 (1953—67)」(A. B. Rofman), 「内陸部における公共事業の効果」(R. Gozzoli), 「アルゼンチンの住宅市場構造と政策」(O. yujnovsky) などの研究課題が進められている。

各部門の研究成果は同研究所出版会から研究所出版物として発表されるほか、*Desarrollo Económico*, *Revista de Ciencias Económicas*, *Económica* などの学術雑誌に掲載されている。それでは次に図書部についてみていくことにしよう。

### 〔図書部門〕

図書部長: Emma Linares

図書部員: Nelly Laura Pesce de Kay, Susana Franchini

他アシスタント: 若干名。

当研究所の社会科学部門の図書部は1960年に設立され広く一般に公開されている。ブエノスアイレス市のみでなくアルゼンチン全国の図書館相互間の貸借関係が確立している。蔵書は「国際十進法」に基づいて分類され、著者、書名、課題別目録が整備されている。まとまった印刷物の形態で出版されている蔵書目録は1966年までのものであるが、その後については *Boletín Bibliográfico* が定期的に作成されている。収集分野は社会科学とくに経済、社会学、労働問題、教育に力点がおかれており、現在書籍数は1万2700冊を越え、別に定期刊行物9700冊(1397タイトル)、マイクロフィルム132件、地図146冊、ゼロックス印刷559部を所蔵している。法令集、議事録などの一次資料に関してはあまり豊富とはいえないが、ラテンアメリカに関する研究書はよく収集されており、国内、国外からの閲覧者を広く受け入れ、年7000人を越える利用者があるとのことである。

以上でディ・テリヤ研究所の紹介を終えるが、より細かい点については近々出版予定の *Memoria y Balance 1973* (5年ごと出版) を参照されたい。(同研究所所在 Superí 1502, Buenos Aires C. F.)

## II

次にブエノスアイレス市における社会科学研究所で重要と思われるもののいくつかを簡単に紹介しておこう。

1. ブエノスアイレス大学経済学部付属経済学研究所 (Instituto de Investigaciones Económicas) (所在 Córdoba 2122, Buenos Aires C. F.) ブエノスアイレ

ス国立大学経済学部の研究所で研究スタッフの多くは学部の講義を担当。個人研究を中心に理論研究が多い。アルゼンチン経済史の分野は Vicente Vázquez Presedo, Pedro Skupch 両教授などにより研究が進められている。なお所長 Julio H. G. Olivera 教授はラテンアメリカのインフレ論争における構造学派的代表的論客の1人である。12名の研究員と4名の研究協力者とからなる。

2. ラテンアメリカ統合問題研究所 (Instituto para la Integración de América Latina)

(Cerrito 264, Buenos Aires C. F. および Sarmiento 1118, Buenos Aires C. F.)

国際開発銀行により1964年に設立され、ラテンアメリカの統合問題に関する調査研究、資料収集を目的とする統合に関する資料は集中的によくそろえられており、図書館相互間の貸借システムに加入している。研究成果は INTAL 出版部より出版され、月刊 *Boletín de la Integración* により出版案内がなされる。所長 Felipe Tami (以下敬称略)。

3. 国際経済協力研究所 (Oficina de Estudios para la Colaboración Económica Internacional) (Cerrito 740, Buenos Aires C. F.)

イタリア系資本フィアットの付属研究所であるが、研究方針はより学術的などところにおかれてきたといつてよい。1957年に設立され、ラテンアメリカ経済発展の可能性を探るべく、研究の重点は各国の経済現状の把握におかれてきた。組織は調査研究部と資料部にわかれている。1958年以降ラテンアメリカ諸国の各国別経済、金融に関する研究プロジェクトがもたれ、その成果は同研究所から出版されてきた。残念ながら財政上の理由から1972年後半以降組織の縮小、改組が行なわれている。所長 Lorenzo Juan Sigaut。

4. 経済社会発展研究所 (Instituto de Desarrollo Económico y Social) (Güemes 3950, Buenos Aires C. F.) 設立の主たる意図は学術的研究の出版および研究者相互間の交流を図るところにおかれているため、調査研究部門はもたず、図書部も小規模なものである。しかしながら会員制度のもとで、経済、政治、法律、社会学などに関する研究会、ゼミナールを開催し、活発な議論の場を提供している。Trimestre Económico と並んでラテンアメリカにおける重要な学術雑誌 *Desarrollo Económico* (季刊) を出版。所長 Oscar Altimir 出版部長 Torcuato Di Tella。

5. ラテンアメリカ社会科学審議会 (Consejo Latinoamericano de Ciencias Sociales) (Lavalle 1171, 4<sup>o</sup>-piso, Buenos Aires C. F.)

ラテンアメリカ研究の組織化、協力体制の創出を旨として1967年に設立された。これまでの社会科学研究者の養成が欧米諸国に依存してきたことを反省しながらラテンアメリカ地域内における社会科学の自立的発展を一つの目標に掲げている。設立の主旨はラテンアメリカ各国の社会科学研究所および研究者の相互交流をはかるため事務局的役割を果たすところにおかれている。現在進展中の研究プロジェクトは、人口問題、都市化と地域開発、経済統合と国民経済、農村問題、経済的従属性、ラテンアメリカの統計資料整理、各国経済の史的・研究、教育問題など多岐にわたっている。ラテンアメリカの10カ国、60近くの研究機関が参加している。事務局長 Enrique Oteiza。

その他重要なものとして Fundación Bariloche, Departamento de Sociología (Suipacha 552, 1<sup>o</sup>-piso, Of. 9. 10), Fundación de Investigaciones Económicas Latinoamericanas (Esmeralda 320), Estudios de la Ciencia Latinoamericana (Callao 542), ブエノスアイレス国立大学哲文学部内社会学、歴史研究センター、同大学法学部付属研究所などがあるが紙数の関係上説明は割愛する。

### III

最後にブエノスアイレス市にある社会科学関係のおもな図書館リストを掲げておく。

1. Biblioteca Nacional (所在 México 564, Buenos Aires C. F.) アルゼンチンにおける最も蔵書数の多い総合図書館。
2. Archivo General de la Nación (Leandro Alem 250, Buenos Aires C. F.) 古文書、歴史文献を収集。
3. Biblioteca de la Facultad de Ciencias Económicas de la Universidad de Buenos Aires (Córdoba 2122, Buenos Aires C. F.)
4. Biblioteca Central de la Facultad de Filosofía y Letras de la Universidad de Buenos Aires (25 de Mayo 217, Buenos Aires C. F.)
5. Biblioteca de la Facultad de Derecho y Ciencias Sociales (Av. F. Alcorta 2263, Buenos Aires C. F.)

6. Departamentos de Biblioteca y Públicas de la Facultad de Agronomía y Veterinaria (Av. San Martín 4453, Buenos Aires C. F.) 3～6まではブエノスアイレス国立大学の各学部図書館である。同大学は中央図書館をもたず各学部の管理下におかれている。

7. Biblioteca del Banco Tornquist & Cía (Bartolome Mitre 559, Buenos Aires C. F.) 歴史文献がかなりよくそろっている。

8. Biblioteca del Instituto para la Integración de América Latina (前述)

9. Biblioteca del Instituto Torquato Di Tella (前述)

10. Biblioteca del Banco Central de la República Argentina (San Martín 275, Buenos Aires C. F.) 経済、統計中心。一次資料もかなり豊富。

11. Instituto Nacional de Estadística y Censos (Hipolito Yrigoyen 250, 12<sup>o</sup>-piso, Of. 1213, Buenos Aires C. F.) 官庁統計が中心。最新の政府関係出版物販売部もあり。

12. Biblioteca del Congreso de la Nación (Rivadavia 1850, Buenos Aires C. F.) 官庁関係、とくに議事録、法令集などが中心。

13. Biblioteca del Ministerio de Agricultura y Ganadería (Paseo Colón 974, Buenos Aires C. F.) 農牧畜業に関する統計、調査、研究書の収集。

14. Biblioteca de la Fundación de Investigaciones Económicas Latinoamericanas (Esmeralda 320, Buenos Aires C. F.) ラテンアメリカ経済に関する研究書、統計が中心。調査研究部門は「ラテンアメリカ社会科学審議会」に参加している。

以上でブエノスアイレス市の主要な研究機関および図書館についての紹介をひとまず終えることにする。社会科学分野としながら経済、歴史に傾斜した嫌いがあり、またブエノスアイレス市以外についてはまったく触れていないので部分的なものになったが、大体のアウトラインはつかんで戴けたかと思う。最後に、拙稿を準備するにあたり、忙しい時間をさいて筆者の質問に答えて下さったディ・テーリャ研究所の Roberto Corés Conde 教授をはじめとする各研究所、図書館関係の方々に謝意を表しておきたい。

(在ブエノスアイレス 海外派遣員)